

たのしい 介護詩



テーマ

【トイレ】

◎選者・今月のテーマに寄せて

毎日お出かけドライブをしているビック病婆様が、夜パジャマに着替えようとしたりパンツをはいていませんでした。

パンツは、昼間でかけたときに入ったコンビニのトイレに脱ぎ捨ててあり、無事保護しましたが、パンツを脱いでズボンだけはいて普通に1日過ごしてたのを想像するだけでニヤケてしまいます。

はいてないことに婆様と遅番スタッフが一緒に驚き、みんなで探す。認知症のお年寄りに振り回されながら、地域の人たちに助けてもらい毎日なんとか過ごしているはいこんちよろしいエピソードでした。

パンツ失く
コンビニトイレに
脱ぎ忘れ

【トイレ】小林敏志選



送迎時 婆さん家でよく トイレ借りたなあ

大西三等歌（介護職）

パット替え 取りに行く間に 転倒す

—— お父さん（介護職）

這いずつて トイレをめぞす 悲しきよ

—— お父さん（介護職）

這つてきて 便器の前で 転倒す

—— お父さん（介護職）

選者評



五七五じゃないんかい！

そこがまたいい（笑）。

送迎時で5文字。婆さん家でよく
で8文字。トイレ借りたなあで8文
字。しみじみ思ひ出す感じがまたい



「トイレ」つちや なんぞぬそれは 「はばかりせん」？

—— 微女（看護師）

トイレがなあ 幼も老も プライドヤ、

—— 微女（看護師）

トイレをば 抱いて寝たいと 婆つちや云う

—— 微女（看護師）

年重ね トイレで忙しい 昼と夜

—— つやひ姫（介護職）

またトイレ トイレ通いも 仕事のうち

—— ライラック（介護職）

トイレ前 どうぞどうぞと 譲り合い

—— ライラック（介護職）

トイレ前 お先にどうぞ 待ちぼうけ

—— ライラック（介護職）

自動ふた 爺の感想 「お化けおる」

—— 藤脇 聡（医師）

排泄を 喜びあえる 小空間

—— 藤脇 聡（医師）

朝イチの 便と一緒に 「はい、おはよう」

—— 藤脇 聡（医師）

和式こそ 日に何度もの スクワット

—— ほじほじ（介護職）

はばかりれ 雪隠^{せつちん} 手水^{ちようず} 懐かしく

—— ほじほじ（介護職）

うんこさえ なんとかなれば 家で暮らせる なんとかしたの夏

—— 金時あんこ

いすねえ。

リズムで例えると『たんたんたん たんたんたんたんたんたんたん』が普通なんですけど、この詩は『たんたんたんたんたんたんたん たんたんたんたんたん』最後の行が、3行から4行にわけられて、最後の哀愁が肩透かしみたいな感じで内容と合ってます。これはきつと音読しないと伝わらないかな（笑）。

一応ベースは五七五があるけど、それはあくまでも表現する為の型みたいなものだから、そこに全てを合わせる必要はなくて、だからタイトルに介護詩ってつけてるわけだし。ルールに乗っかると見せかけて、最後に崩す文章がお見事。





6回も 打って家族は 画面越し

藤脇 聡 (40代・医師)

小林さんには投稿者のお名前を伏せて
選考していただいています。(編集部)



簡単そうでしょ？ でもね奥深いよ

——大西三等歌 (介護職)

孫はでき 爺はうつぶく 公文式

——微女 (看護師)

お菓は 味方をしたい 苦なの

——微女 (看護師)

ごめんなさい トイレの神様 明日からネ!

——微女 (看護師)

木蓮の 白に魅せられ 春の日に

——つやひめ (40代・介護職)

薄着になり お腹まわりが 気にかかり

——ライラック (介護職)

秋よこい いつまで続く この暑サ、

——ライラック (介護職)

夜勤明け フツと我に返る 気が抜ける

——ライラック (介護職)

広島の青空に舞う 四千羽

——ほじほじ (介護職)

ゲンからのバトンをしかと 原爆忌

——ほじほじ (介護職)

選者評

これはワクワクチンのことで
しようねえ。皮肉が効いてい
て好きです。僕はワクワクチンのことは専
門家じゃないのでわかりませんが、打
つ、打たないは個人の自由でいいです
けど、面会はある程度ルールを決めて
対面に一刻も早く戻したほうがいいで
すよねえ。
対面禁止は、お年寄りの社会性を奪
うだけでなく閉鎖的環境が働いてる職
員の社会性も奪うことになるから、虐
待や身体拘束へすぐにつながると思う。
密室性や閉塞感をどれだけ開放するか
が介護の重要な課題なのに。
関係を変えないのが介護の基本です
し、認知症を悪化させないためにも対
面の面会を再開してほしいなあ。

